



うまい・きれい かほく米づくりの運動では10の技術の実践を推進しています。
どれだけ実践できているか、チェックしてみましょう！

作業したら直ちに記帳しよう(営農の手引き綴じ込みの栽培履歴記録簿へ)

三点セット(適正栽植密度、植付本数、5月田植)で乳白粒の発生を防止しよう

推進技術	目標	チェック
1 播種量 (うす播きの励行)	・1箱当たり乾もみ120gの播種は実施できましたか。(太植による過剰生育の抑制)	
2 育苗日数 (健苗の育成)	・播種から田植えまで1か月以内の育苗日数が守れましたか。(初期生育の確保)	
3 植付本数 (3~4本植えの励行)	・1株当たり3~4本の植付本数を守りましょう。(適正茎数の確保)	
4 適正な栽植密度 (優良茎の確保)	・1坪当たり50~60株の栽植密度が確保できましたか。(適正茎数の確保・乳白粒対策)	
5 適正な施肥 (栄養凋落防止と登熟向上)	・生育に応じた施肥ができていますか。 ・生育状況に応じた追加穂肥の実施をしましょう。	
6 田植え時期 (早植えの防止)	・5月田植えを実施できましたか。(過剰生育の防止)	
7 中干し・溝切り (遅発分けつの抑制)	・田植え1か月後からの実施(過剰生育防止) ・中干し期間1か月(コシヒカリ)の遵守	
8 除草・防除 (畦畔等除草とカメムシ防除の徹底)	・7月上旬までの追加除草 ・水稻の生育ステージにあわせた適期防除の実施	
9 水管理 (飽水管理の徹底)	・中干し後から出穂までの約1か月(コシヒカリ)の飽水管理 ・出穂から刈取り直前までの1か月以上の飽水管理(乳白粒対策、胴割粒防止)	
10 刈取時期 (適期刈取りの励行)	・もみの黄化程度に応じた刈取り	

今月のポイント① コシヒカリの田植えは適正な栽植密度、3~4本植え、5月植えで！
営農の手引き41ページも参照ください。

- 乳白粒の発生防止は過繁茂防止から。
 - 過繁茂防止は50~60株/坪植え、植付本数3~4本/株、5月田植えとし、50株/坪植えは15箱/10a、60株/坪植えは18箱/10aで植付しましょう。
- ※中山間地や晩期コシヒカリは、収量確保のため、60株/坪植え以上としましょう。

コシヒカリ50~60株/坪植え
晩期コシヒカリ60株/坪植え以上
ゆめみづほ：60株/坪植え
植付本数3~4本/株

→ 適正茎数の確保

→ 適正本数の確保

→ 乳白粒の発生防止



▲3~4本植えイメージ
平均3本/株

今月のポイント② 農薬使用基準を守って使うこと！

営農の手引き40ページも参照ください。

- 初期害虫・いもちの同時防除(箱施薬剤)
- 農薬の使用量、使用時期等を必ず守って下さい。

使用薬剤	効果・特徴	使用量	使用時期
ツインターボ箱粒剤08 ブイゲットバリアード粒剤 Dr.オリゼフェルテラ粒剤	イネドロオウムシ・イネミズゾウムシ・いもち病等の病害虫予防の箱処理剤(本田のオリゼメート不要) 白葉枯病常発地帯は必ず施用してください	50g/箱	田植前3日~ 田植当日
Dr.オリゼプリンス粒剤6	上記病虫害の他に「イナゴ」の予防になります		緑化期~ 田植当日

※水稻育苗後、ハウス内で野菜等を作付けする場合は、ハウス内での箱粒剤の散布を控えてください。
※苗箱に箱施薬剤と間違えて本田除草剤をまかないよう注意してください。

裏へ続く

今月のポイント③ 圃場にあった除草体系と除草剤散布後7日間の止水を徹底!

営農の手引き32~35ページも参照ください。

〈一発処理〉(代かきから4日以内で田植えする場合に実施)

田植直後~10日 → ベンケイ1キロ粒剤

(省力化一発処理)

田植後3日~12日 → ガンガンジャンボ

●代かきから田植えまでの期間が長い場合	田植直後~5日	キルクサ1キロ粒剤	田植後10日~14日	ベンケイ1キロ粒剤
		農将軍フロアブル	田植後10日~14日	ベンケイ1キロ粒剤
●特に雑草が多い圃場の場合	田植直後~	キルクサ1キロ粒剤	田植後14日~20日	イネキング1キロ粒剤
		サインヨシフロアブル	田植後14日~20日	キマリテフロアブル
●特にヒエが多い場合	田植直後~10日	ガンガン1キロ粒剤	田植後20日~30日	ヒエクリーン1キロ粒剤

注意!!

- ・代かき後、田植え前にキルクサ1キロ粒剤や農将軍フロアブル、サインヨシフロアブルなどの初期剤を散布した場合は7日間田植えができません。
- ・例として、日曜日に初期剤を散布した場合、次の週の日曜日から田植えができます。
- ・誤って使用した場合は農薬取締法の違反になります。

今月のポイント④ 田植同時除草剤の使用上の注意点

田植同時除草剤を使用する場合、苗の根が除草剤に接触すると薬害を生ずることがありますので下記の点に注意してください!

- 除草剤の効果を高めるために代かきを丁寧に行うこと。
- 水もちの悪い圃場では使用しない(1日で水がなくなる圃場)
- 極端な浅植えにならないよう田植機の植え付け深度を事前に調整する。→根が地表に出ないようにすること

今月のポイント⑤ 石川かほく環境にやさしい農業のすすめ

●耕うん作業

・耕うん作業はていねいに行い、ほ場の碎土性と均平度を高めることで、浅水代かきの効果が高まります。

●代かき

・田植え3日前までに行い、代かき後のにごり水は絶対に落水しない。

●田植え前のごり水流出を防止するために代かきは浅水で

- ・水を入れすぎると、代かき作業がしにくくなるだけでなく、にごり水の量を増やすこととなり、環境保全によくありません。
- ・代かきハロー(ドライブハロー)で代かきを行う場合、水の量は右の写真(土が7~8割見える)程度で十分です。
- ・浅水での代かきは、節水にもつながります。
- ・通常のロータリーで代かきを行う時も、できるだけ浅水にします。
- ・代かきハローはゆっくり歩く程度の早さで走行し、1行程の作業で仕上げましょう。
- ・田植え前の「強制落水」は、にごり水流出の一番大きな要因です。



●田植え後の見直し作業

- ・20株に1株程度の欠株では減収しないので補植は必要はありません。
- ・過繁茂防止のため、活着肥は施用しない。

●田植え後の水管理

・活着後、晴天時は浅水とする。藻が発生してきたら田干しする。

JA石川かほく米555共励会今月のポイント

営農の手引き3~5ページも参照ください。

- 田植機同時散布で楽々散布・労働時間短縮
 - 省力剤散布で楽々散布・労働時間短縮
 - 適正な栽植密度・3~4本植え・5月田植えで品質向上
- 「JA石川かほく米555共励会」エントリー受付中(5月末まで)。詳しくは営農販売課まで